

社説

宮崎日日新聞賞 未来につながる確かな歩み

第62回宮崎日日新聞賞（宮日賞）の贈呈式がきょう、宮崎市の宮日会館で開かれる。今回は科学、文化、教育、産業、社会の5部門と、新設のSDGs部門を合わせ、6部門の2個人4団体を受賞する。人々の暮らしの安心や幸せを願い、長年にわたり研究や活動が続けてきた受賞者たち。その確かな歩みは地域に刻まれ、未来へとつながる。あらためて感謝したい。

科学賞は、宮崎大フロンティア科学総合研究センター准教授の齊藤暁さん（宮崎市）。市販のあぶらとり紙を用い、ネコの

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）感染を確認する手法を考案するなど同大学を拠点に研究成果を発信、社会に還元してきた。国際的な評価が高い。文化賞は、俳句文化の継承と発信に尽力する県俳句協会（宮崎市）。今年で設立60周年となった。県民俳句大会を毎年開くほか、「県俳句年鑑」や本県特有の自然や風土を反映した「みやざきの季語」の刊行など地道に活動。各地でイベントも行い、裾野の拡大に努めている。教育賞は、本県の防災意識の向上に研究と啓発の両面から力を発揮する宮崎公立大人文学部准教授・山下裕亮さん（宮崎市）。京都大防災研究所宮崎観測所で南海トラフ地震や日向灘地震の

研究を続け、情報を発信してきた。たほか、防災教育やフィールドワークなどにも汗を流す。産業賞の宮交ホールディングス株式会社（宮崎市）は、1926（大正15）年の宮崎交通創立から数えて100周年を迎えた。バスタクシー、旅行、ホテル、商業施設、ビル管理、物流など多角的に事業を展開。県民生活を支えるとともに「観光みやざき」の発展に力を尽くしている。社会賞は「NPO法人ASDみやざき（県自閉症協会）」（宮崎市）で、前身の「宮崎市自閉症・情緒障がい児を持つ親の会」発足から50年がたつ。講演会や勉強会、交流会などを開き、障害の有無にかかわらず、誰もが安心して共に楽しく暮らせる地域を目指してきた。新たに設けたSDGs賞に決まったのは、地元漁師らが発足した平岩採介藻グループ（日向市）。魚介類の餌場や産卵場となる藻場を再生させようと、食害をもたらすウニの駆除に取り組み、成果を上げている。活動はSDGs（持続可能な開発目標）が掲げる目標のうち「海の豊かさを守ろう」に該当する。なお、今回は国際交流賞の該当はなかった。

を發揮する宮崎公立大人文学部准教授・山下裕亮さん（宮崎市）。京都大防災研究所宮崎観測所で南海トラフ地震や日向灘地震の